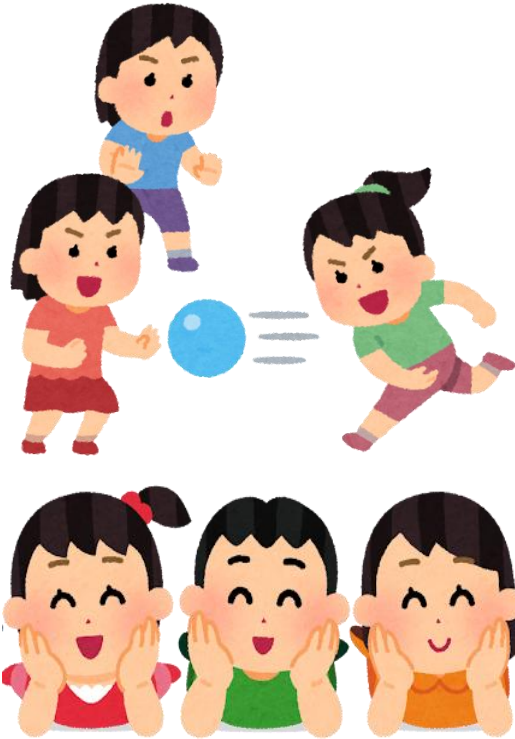




「人はみんな師」 = あるエピソード =



あるエピソードを紹介します。1年生がドッジボールをしていた時の話です。

1年生にとってみれば、ドッジボールは、ボールが勢いよく飛んで来るので怖い子も当然います。そんなある日、今までボールが怖くて参加できなかった子が、勇気を出してドッジボールに参加しました。しかし、運が悪いことに、その子の顔にボールが当たり、その子は外野へ出て、涙が止まらず座り込んでいました。その様子を見ていた男の子がそばまで行き、「痛いよね。僕も当たったことがあるけん分かるよ。」と声を掛け、泣き止むのを待って優しく、「またする？」と声を掛けました。泣いていた子は、「うん。」とうなずき、また、ドッジボールを始めました。

私は、この話を担任から聞き、さり気ない優しさと行動力に感心しました。果たして私が小学生の頃、同じようなことができたでしょうかと思いました。ドッジボールに夢中になり、同じような行動は取れなかったのではないかと思います。保護者の皆様は、小学生の頃はどうかだったでしょう？

「人は皆師」という言葉があります。自分以外の人全てが学ぶべき点があるという言葉です。私は、子どもたちの純粋さや素直さ、優しさにもしっかりと学んでいきたいと思います。優しく、行動できる子が育っていて嬉しいです。

みなさん、チャレンジしましょう！



今、子どもたちは、音楽会に向け、自信を持って楽器が演奏できるよう、いい声を響かせようと頑張って練習に励んでいます。また、12月にあるマラソン大会へ向けて、来週からは、中休みにマラソンタイム(トラックの周りを走る)を行います。苦手なことにも取り組み、力を伸ばすことを期待します。私も、12月に行われる市内PTA駅伝大会に松柏小Bチームとして出場することになりました。ここ数年、運動をしておらず、不安しかありませんが、全力でチャレンジしたいと思います。(大丈夫?という声、多数あり)



ドジャース山本選手と日本の学校教育の文化



みなさんは、ドジャースとブルージェイズのワールドシリーズをご覧になったでしょうか？私は第6戦・第7戦の中継をテレビで観ていて、テレビの前から動けなくなりました。テレビ中継をご覧になっていた方は、私と同じだったのではないのでしょうか。

このワールドシリーズで、山本由伸投手が完投勝利を収めた試合後、自身が飲んだペットボトルやダグアウト内に落ちていたゴミを片付けて帰り、その姿が賞賛されました。大谷選手がゴミを拾う姿は、以前から賞賛されています。また、サッカーのワールドカップでも、日本の応援団が、スタジアムのゴミを拾い、その姿が世界から賞賛されたことも記憶にあると思います。

私は、そのような姿は、日本の文化であり、その根底にあるのは、学校の「掃除の時間」だと思っています。（外国では掃除の時間が無い国が多いです）。幼い頃より、教室やトイレや体育館など、「使った場所はきれいにする」ことを習慣のように行い、その精神は私たちの中に染み込んでいます。「日本の駅や道路にはゴミが落ちていない。」と海外からの旅行者が驚く日本の文化の源流は、小学校での掃除の時間だと私は考えます。



日本の学校教育は、目に見えない「道德心」という心を育て、人や自然や環境を大切にする生き方を学び取ってきました。山本選手や大谷選手も、「来た時よりも美しく」という精神を、学校で、少年野球チームで学んだことと思います。日本の国では全ての学校で掃除を行い、その精神は社会にも根付いています。「KARAOKE」と同じように、「SOUJI」が世界共通語になる時が来るのかもしれませんが。学校生活の日常の中に、世界に誇れる文化につながる活動があるのです。

